

2017年度 SPODフォーラム

ダイバーシティの推進について

男女共同参画推進室 コーディネーター
特命講師 村上 弥生

▶ 1

2017/8/23

本日の講座の構成－前半－

- I 自己紹介
なぜダイバーシティ実現が大切と考えるようになったのか
- II 経済戦略としてのダイバーシティ実現について
- III ワーク: 同性愛についてどう思いますか?
- IV 「常識」を見直す
 - ・人類学・民俗学による女性研究
 - ・中世の女性像

▶ 2

2017/8/23

本日の講座の構成－後半－

- V ワーク:
『恋の相手は女の子』から「多様性」について考える
- VI まとめ
知識: 脳科学の研究から

ダイバーシティ推進に必要な根本要因を考える

▶ 3

2017/8/23

I 自己紹介

福祉制度を学ぶ・・・経済学、社会学、法学(民法)
幸福な生活とは?を考える・・・心理学、人類学、民俗学
人が生きる活動の基礎原理?・・・経済史・産業技術史



民俗学を基礎とした技術史研究へ
明治期に開発され、西欧諸国から大きな需要があった
「新しい和紙」の歴史を研究中
→開発主導産地(土佐)には多様性を認める風土が
→そのうえで競争・協調があった

▶ 4

2017/8/23

Ⅱ 経済戦略としてのダイバーシティ実現

人口経済学

ハーバード大学 David E. Bloomら

人口ボーナス期の終了



人口オーナス期に(1990頃～)

onus＝重荷、負担

・・・生産年齢人口減少＝人口オーナスとなる
→約1%の成長率の下押し

▶ 5

2017/8/23

Ⅱ 経済戦略としてのダイバーシティ実現

○人口ボーナス期の働き方

男性(体力勝負)・長時間・一律管理

○人口オーナス期の働き方

男女とも⇐頭脳労働の比率高

短時間⇐時間当たり費用の高騰

多様(育児・介護・難病・障害等が影響しない)

▶ 6

2017/8/23

Ⅲ ワーク：

同性愛についてどう思いますか？

ご自身の率直な印象を数行にまとめてください

▶ 7

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直すー文化人類学からー

『ジェンダーで学ぶ文化人類学』

田中雅一・中谷文美 編 2005年 世界思想社

女同士の結婚

エヴァンズ＝プリチャードの『ヌアー[ヌエル]族の親族と結婚』(1951)で詳しく報告

アフリカ・スーダンのヌエル社会＝牧畜が生業

一対の男女による排他的な婚姻は理想ではない

一夫多妻・・・一人の女を娶るために40頭の牛を贈与する

牛は、その女性が産む子どもに対する権利→婚資をはらうことによって、死んだ未婚男性、女性も花嫁を娶ることができる

▶ 8

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—文化人類学から—

死んだ未婚男性の名前で結婚

＝「死霊婚」(エヴァンズ＝プリチャード)

女性同士の結婚

どちらも結婚の代理人は通常、近親の男性

異様に思える

—自文化中心主義からなかなか自由になれない—

←異性愛主義、恋愛結婚至上主義

フェミニズムも、女性一般の地位の向上を目指してきたにもかかわらず、レズビアンの問題をしばしば無視・排除

▶ 9

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—文化人類学から—

ジェンダーという概念も、強い異性愛主義の影響下で二項的な設定をしてきた＝男か女か

→人の性が二項に収まりきらないということが急速に明らかに

「第三の性」、「第三のジェンダー」、「トランスジェンダー」といった概念も注目されてくる

トランスセクシュアル…身体的な性に強い違和感を持ち性の転換を望んでいる人たち

トランスジェンダー…身体を変えようとはしない人々は

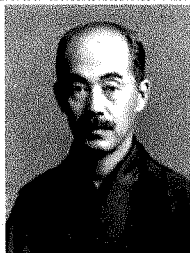
▶ 10

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—民俗学から—

柳田國男

「民俗学の父」



1875(明治8)年—1962(昭和37)年。

兵庫県出身。

文学的才能に恵まれ、短歌、抒情詩を発表。

東京帝国大学法科大学政治科

(東京大学法学部政治学科)卒業、明治33(1900)年

農商務省に入省

農村の実態を調査・研究して民俗学を成立させる
最初の民俗誌:「後狩詞記」、民話収集「遠野物語」

▶ 11

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—民俗学から—

柳田國男『木綿以前の事』『昔風と当世風』

初出:1828(昭和3)年

今日固守しているところの昔風のごときも、実に遠からぬ昔に…採用したものが多く、…中世以来の変化がある…

近代に入ってから変更せられなかった生活方法というものは、探しても見つからぬほどしか。古く行われているから保守しなければならぬというものなどは、決してそう沢山には無いのである。

▶ 12

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—民俗学から—

腹式呼吸法を始めた岡田虎次郎さんは、…老人や女たちを集めてよく静坐の講釈をせられた。

「柳田さん、日本魂(やまとだまし)と日本人の坐り方とには、深い関係があると私は思うがどうか。もし畳というものが無かったら、日本人の勇気気力は今日のごとく修鍊せられていなかったろうと考えるがどうか」と尋ねられる。

是には誠に柳田なる者も返答に困った。

ペチャンコの坐りかたを始めたのは、どうも三四百年より古くはないらしいからである。

▶ 13

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—民俗学から—

柳田國男「女性史学」(初出:1934(昭和9)年7月の講演)

頭を働かせた判断才能を耀かさなければならぬ任務がいつの世にもきまって沢山にあったということである。…女房のみに委ねられていた仕事が、生産よりも分配の方面にはいろいろあった。

それが彼女から取上げられて、家庭の不幸は生じた…

人のイハヒのために欠くべからざる特別の飲み物は、女でなくてはこれを作ることを得ないか、または女のみがこれを醸す力を、持っているように考えられていたのである。

カモスという日本語は、古くはまたカムとも謂っている。沖縄の島では、なお若い綺麗な娘たちによく歯を清めさせ、米を嚼んでは器の中に吐き出させて、醗酵させたもの

▶ 14

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—民俗学から—

杜氏(とうじ)=酒を造る人

もともと刀自という文字があてられていた。

刀自=家事一般をとりしきる主婦のこと。

口嚙みの酒という原始的な醸造法

唾液中のアミラーゼで飯のデンプンが糖化され、自然に入り込んだ酵母菌によって発酵してアルコールができる

東南アジアが発生地ではないかと考えられている

▶ 15

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—中世女性史から—

『中世に生きる女たち』

脇田晴子 1995年第1刷 岩波新書

古来、日本では、酒は女が作るものと相場が。

お神酒ということばが酒そのもの。女性が神をまつるためにお神酒を作り、土器をつくり、人が飲む。10世紀の「延喜式」でも酒は女のつくるもの。



中世の古文書で酒づくりは大部分が男性(男性名)。

近世中期ごろから、酒造の場は女人禁制。

麹室に女が入るだけで酒が腐るとまで

▶ 16

2017/8/23

Ⅳ 「常識」を見直す—中世女性史から—

中世には

庶民の中で女の金貸し、実業家も出ていた

しかし、徐々に女性が貶められる

「女性は穢れがあるので成仏できない」

「変成男子」=女子には五障があって成仏が困難なので、男身を得てはじめて成仏する

生殖能力に対する男性の恐怖感や・・始原的な宗教に対する忌避が、女性に対する不浄観を高めていたというべきでは。

▶ 17

2017/8/23

Ⅴ ワーク：『恋の相手は女の子』から「多様性」について考える

配布資料：『恋の相手は女の子』抜粋

室井舞花 2016年4月

岩波ジュニア新書

- 1.資料を読んで自身の感想をまとめてください
- 2.グループで感想を出し合い、話し合いをしてください
- 3.グループの意見を発表してください

▶ 18

2017/8/23

Ⅵ まとめ

同性愛傾向の要因と考えられる脳科学の説

『キレル女、懲りない男』

黒川伊保子 2012年 ちくま新書

- ・男女がかならずしも同じことをやりたがらない
- ・生まれたときに脳の仕組みの大半はできあがっていると主張する科学者もいる。
- ・1990年ごろから研究が進んできた

▶ 19

2017/8/23

Ⅵ まとめ

『キレル女、懲りない男』より

男性・女性の行動パターンが作られる仕組み

右脳と左脳を連携させる脳梁という器官がある
 ・・ 女性は男性より約20%太い。

妊娠中期から後期にかけて、
 男の胎児には男性ホルモンが供給される
 ⇒脳梁が細くなる⇒男性の行動パターンに

▶ 20

2017/8/23

VI まとめ

妊娠のコンディションによっては、細くなりきれないで生まれてくる男子が

→女性並みに脳梁が太い

→男性同性愛者傾向

以上のような脳の仕組みから

男女の行動パターンには差が出るという主張

身体



脳=心

▶ 21

2017/8/23

手術せず性別変更

「心の性」重視し家裁許可

毎日新聞2017年8月20日 07時30分 （一部抜粋）

男性ホルモンの分泌が過剰になる先天性の疾患により、体は女性だが自分を男性と認識し苦しんできた20代の2人に対し、家庭裁判所が2015年と16年、女性の体のまま戸籍を男性に変えることを認めていたことが分かった。

「心の性」が「体の性」と一致しない人が戸籍の性別を変更する際、日本では手術で生殖機能をなくすことが求められているが、国際的には人権侵害とも批判されている。

「心の性」を重くとらえた今回の家裁の判断は、時代の流れに沿ったものと言えるだろう。【丹野恒一】

身体



脳=心

▶ 22

2017/8/23

VI まとめ

男性と女性のあり方を
柔軟にするべき

ダイバーシティ(多様性)の時代



幅広く知識を

▶ 23

2017/8/23

VI まとめ

ダイバーシティ実現のために必要だと思うこと

- ・知識を持つこと
- ・「伝える」こと
- ・「聞く」こと

▶ 24

2017/8/23